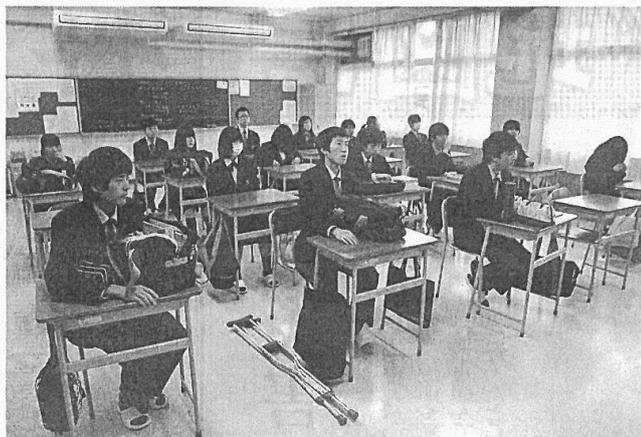


定員40人の教室を半分の人数で広々使ってホームルームをする
2年生=氷上西高校で



一人ひとりを伸ばす

氷上西高

37人を2クラスに

氷上西高校(高橋信之校長)は、より細かな生徒指導や学習指導になげようと、定員40人1学級の2年生37人を2学級に分ける試みをはじめた。これまでは1年生のみ2学級だったが、生徒との1対1の面談をしやすくし、半数が希望している地元就職について細かくケアをしていく。(足立智和)

生徒が担う役割倍に

同校独自の取り組み。青垣中と氷上中の3年生 学年担当の教師1人をクラス担任に回し、19人と18人の2学級にした。昨年秋、連携教育校の

現、キャリア形成につながる指導になげようと分割することにした。学習面では、2年生で3類型(進学を視野、商業系科目を取り就職を視野、コンピュータ、情報処理検定を取る)に分かれ、12-17人で受ける授業があるほか、数学も習熟度で2つに分けていく。

高橋校長は「2学級にする」ことで、例えば、委員長が2人になるなど、生徒が学級で担う役割も倍になる。2年生のうちから一人ひとりを細かく指導していくことが、3年生の進路決定に有効で、「分かる」経験を重ね、「分ける」経験を重ね、学意欲を喚起しようという試み。また、同校では今年度から1年生で週に2時間、中学の学び直しをする取り組みも始めた。中学校でつまづいた所を理解できるようにし、基礎学力をつけることも、「分かる」経験を重ね、学意欲を喚起しようという試み。